

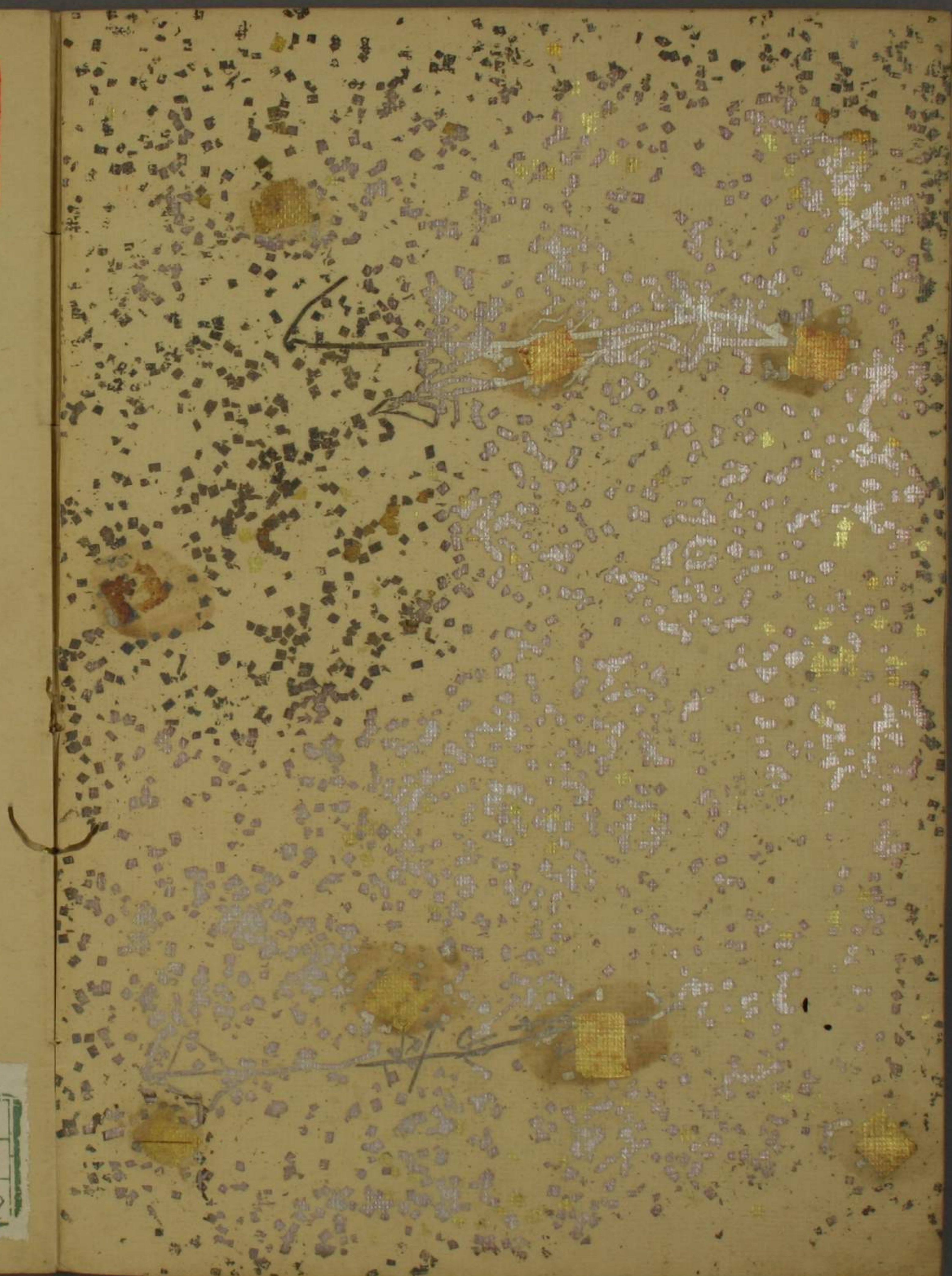


特別
~12
1077
29





利
1077
2829



野分

六六歲

大政大長

中宮沙前植秋花事

八月野分事

紫沙前泔理前栽事

父方中將大風中系六條院事

中將自妻戶融奉見紫上事

中將又系三系大之五給事

未明中將系花散里次系紫上沙方事

源氏君以中將右為沖波被訪申中云事
中宮沖方帝共中史龍飼露事

中將恭源氏沖方申中云沖也事終事

源氏君系中宮終事
中將候沖云事

次後明石沖方終事

次後玉鬘沖方終事

源氏与作君感給中將奉見性思事

次後花散里方終事

次後明石作君沖方終事

中將申出硯紙書文終事
行刺壹枝事

中將奉見明石作君事

中將又系之系云云終事

内大臣系之條云事
被申沖子進云事

野分

以詞為卷右

豎並

河

は卷野分をりて始終為珍也

私野分まいの〜りわもあ〜ら〜く

又〜〜〜さ〜〜さ野分お〜わ〜

さ〜〜〜

秘

卷右以詞号く源亦云々此八月事也豎並

日

中宮の御もくも

箋 秋好也 秘

六葉院より秋好申まのにおりる方也

あふきをけき

弄 箋 日 ぬくくの草也

箋 日 濁音不審

ら〜あふららふららふらら

箋 繁

本のはをなまはらるをあふららら

箋

皮十カラツハ黒本皮十キハ赤本トウリ唐

本ハ北ノ弄秘

何 風流の公名 能因奇枕モマセをいふ

いぬこも

朝夕露の光も

何

うぬきを〜君も志矢中ハ花をけを

み〜やあ〜を〜

けらりやせら野色のみ

箋

秘 秋の野ヲ〜海で遊りナスヤ

涼しうおりし秋く

秘春の暖丸の戸也

春秋のわく多ひり

若菜巻のモアハ

万葉才一辺に大津文沙宇天皇代天皇詔

内大臣藤原朝長 大織 競憐下 春の万花

之歎秋の千葉の秋時額田王以秋判之

哥冬木成春去れは不啻鳥 カカリ 来鳴又不用

花 モ まれは心成志けとてとこり守菜原

みよりてし見え秋心の本成心成りては

葉のいれてそ志のよき心成りては

くそく恨し秋心成りては

樹下集の志のよき心成りては

議

西白のそそ記事をとらふ道は

いづれは心成りては

まのそそ心成りては

らん心成りては

何

拾を才九あり而よ去秋いつれまゝと
ころせ活けりふ

何

春秋よさひしとれくもれう録の時よ此
をつうりふんは

又云え良親と承書後わしたは去秋い

つまらりまゝさわつしとひゆれいあり

ゆやといひまれのりもきさう残れ

いといひてゆまれの

何

大さの秋よ心いさしとむんむん時

まゝしをか

又観しす しみ人志と

長いキと花れひくもさうり地

まは林うまさいま

福徳公いさうと事お中おれ時應和年

七月二日は君直王林の弁合事あ

り林の方あり

たもさうお祭ともいさう書しと

お月林んまさいま

今葉万葉額田王、亦シ始ト秋ノ心ト
よせてるや、まこと初おろさぬ心三は能事なる
川安ホ日ノ回略三有之河海
今叶万葉

松の上葉分我

あはれをこゝに去れ清き（乃はそのよんは）
人

何 名よまよはけ物流しも名をこゝろに
美 妙云葉上りの清き心よまよはけ
まろしとま

松云こゝろの春よまよはけお流しは
川安 ちここの秋よ心よまよはけ
みり時ハこれもあはれなるよまよはけ
何 霧のよまよはけその菊もあはれ
あはれまよはけとせうまよはけ

又日まよはけ
時ありしよまよはけ
時ありしよまよはけ

慶長三
松二ホ一
春秋のあ
とひよ昔
しり秋よ
心よまよ
人あはれ
よまよは
はまよは
時あり
あはれ園

日くし何ハ
 呂美此多
 と感一
 一く之
 林草九
 とす
 林
 人
 と
 一
 五
 一
 一

世とくつりて
 世とくつりて
 世とくつりて
 世とくつりて
 世とくつりて

是も一付し

又みてもつりて
 又みてもつりて
 又みてもつりて
 又みてもつりて
 又みてもつりて

といふもきり

是林とつりて
 是林とつりて
 是林とつりて
 是林とつりて
 是林とつりて

けりてつりて

け二角河海川舟の上美

私にもおれは
 私にもおれは
 私にもおれは
 私にもおれは
 私にもおれは

世とくつりて
 世とくつりて
 世とくつりて
 世とくつりて
 世とくつりて

高行と西人
 高行と西人
 高行と西人
 高行と西人
 高行と西人

中文に
 中文に
 中文に
 中文に
 中文に

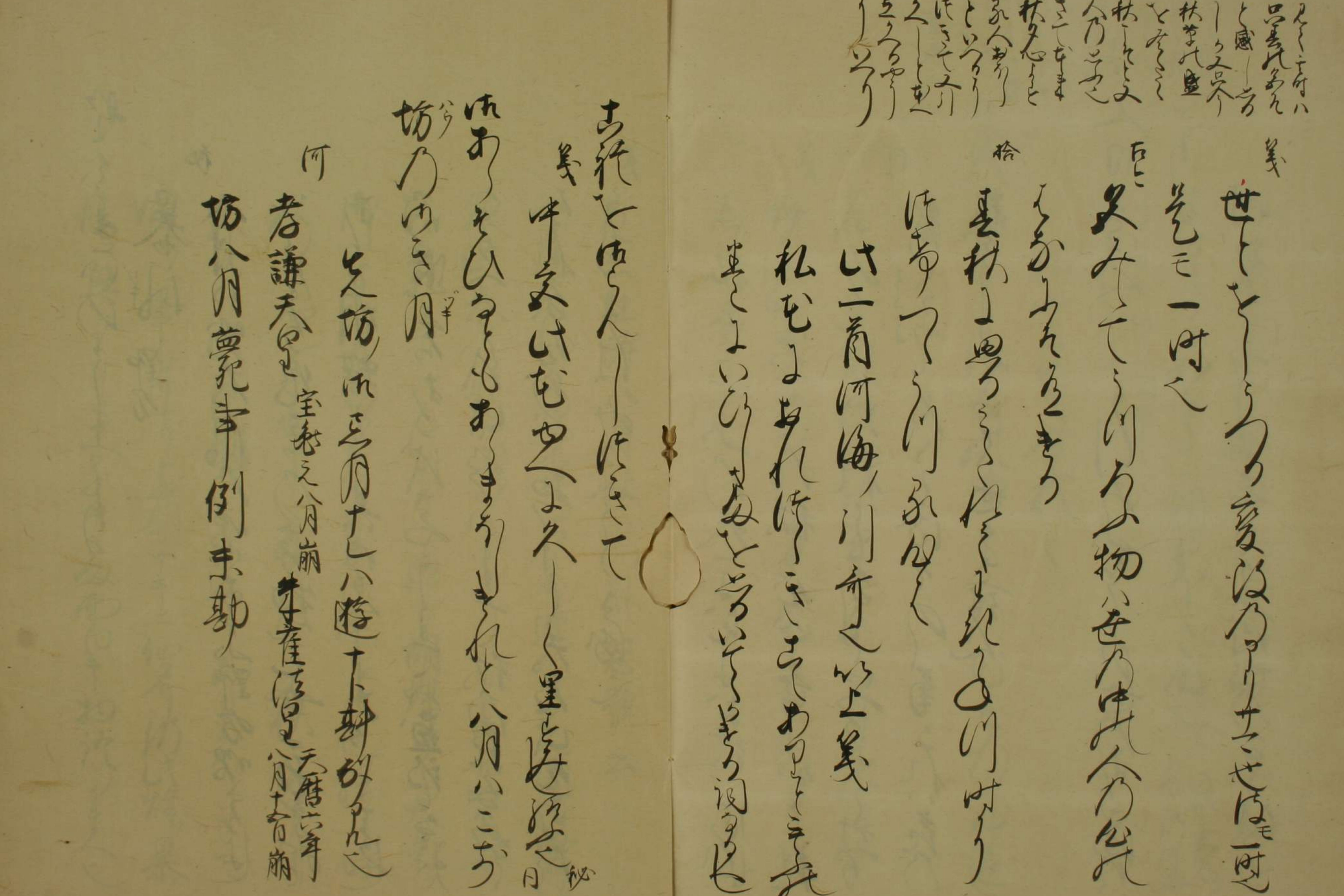
所ありし
 所ありし
 所ありし
 所ありし
 所ありし

坊乃西
 坊乃西
 坊乃西
 坊乃西
 坊乃西

足坊
 足坊
 足坊
 足坊
 足坊

何者謙天
 何者謙天
 何者謙天
 何者謙天
 何者謙天

坊八月
 坊八月
 坊八月
 坊八月
 坊八月



野方秘の

暴風野方

八月ハ必大風乃吹秘て野方吹秘らば
とよきり危き乃考物とし女よお系秘れ
あり胡蝶秘り其由之秘一ありとよき
乃造るあり成さ秘りしてハ直り秘るが
まうへ秘成け形秘ふして杖秘の氣秘を氣
なれぬ秘妙く也秘く天秘にけ秘おあり
うら秘はみ秘る秘く秘家秘し

美 花云杜詩八月秋高風怒號云

八月去風ウ吹事古事連綿秘は例河海流
吹け卷秘形秘吹秘らり秘書秘花心秘は女
取葉秘ニテ秘け秘まり秘流秘ハ胡蝶秘び秘春南
御方秘りり秘吹秘き秘返秘ら秘せ秘流秘時
人秘心秘と秘せ秘く秘流秘成秘ハ秘杖秘成秘テ秘中
文秘ヨリ秘け秘花園秘ニ秘テ秘返秘ら秘あ秘ま秘り秘こ秘と
ゆり秘事秘ハ秘ナ秘リ秘盡秘期秘ナ秘キ秘ハ秘俗秘者秘ハ秘け秘輝秘暴
風秘具秘く秘之秘氣秘ハ秘西秘向秘中秘拍秘流秘も秘人秘

已上事 是八面テノ 義下ノ心ハ天道ハ一切ニ成
誠一必下期ノ事必クカウ物ニサハ必トスル
ナシトイヘリ仁王経三事ヲ願遠樂ト悲俱
ナリト流リテ付眼而

何

仁和三月廿日自卯起暴雨少風拔樹家顛
延喜十三八申刻大風折樹破屋
天慶五八十一大風暴雨如延喜

康保二八廿八大風法司并京中破損

永祚元八十三酉刻大風文城門舎下京顛

又賀茂上御社石清水御殿東西廊祇園天
神堂凡一糸北邊新田堂舎東西山宇皆顛倒
同二年十月七日改元為正曆依去年八月大風
已上義

之少事ぬ人

秘

中文乃所由一一服身中必々一
乃(一)

美

况や中文ノ所由ノ中ノ切ナル事又ノ事
乃(一)乃(一)乃(一)

も
古今形恒長弁玉乃どとききてこれらじ

あゝまゝこれと雲こぢり

私白露よ風の吹く林のほとけ

とめぬ玉うちりきり

はかまもひもまぬへく

申文よ切りおちりめしつらさぬ

おひさしり乃袖

何
大空よりおちりつら袖もよまはる

と風りさきせ



秘 美 田 川

輝乃中より

秘
妙るり網く去の流とつらさぬ

せりむおりり

美
去の流しと云かへたにたひまきり

らりあそいしと花ぬるとおちり

美
さげはちりさくねはましとささる

ぬ花の上へね 拾遺

私
物まゝこれおきてそらり橋をよぬ

のうーろあさささ

東のよの凡のうーろあさささ
みさこれおささ

美 雲上柳方

りあろ乃小森

美河 文誠乃りあろ小森
ゆし君とささ

川方あ物と森露の凡ゆたさ
せり是ハ露ノモ早キタイハ此

形方ハアコリニ風ヲゆつる

假令秘ニささ
ハル類ニトアリ

秘

川方風とささ君とささ
まるといひともあささ
ささこれいひのぬおささ

河川方

文本乃りあろ

森乃あつ枝とささやれ
ひささささあつ枝とささ

さげりよと云く本森といひておし生森は
しきくここいしんていれの中よ大小
あまいちいされといしあ本森とあり
一沈林うくうりうく下葉はらりといれり
とあ本森と云せしりあ本森といしこ
と本ありしと本こいしんていれをく
るしちく

はるよとく

おしハ姫君乃のいれよ

明石老

源氏ハあし乃姫君はよおんまら
玉カウラノ方ニワリ下
私不審

中ね君まのわねとく

夕秀

こさうしんていれ

小清子のより

秘云くしハ上く紙に北久井一禪云ツ子麻
トラ隔テ障子ヲ立ルヤ上ラハるんは

ソヨリたぐくゆととらや松の上字はれ

の上美

ひさしのおまうしよわつる人

美
はる上之

去れぬかの霞たけりおりのつらきと松

嘆きれり

美
後みり去りきりけはけきと松

ふみふは橋か

うは橋といふと知して松は松なり松

櫻とカケリ古今物名部は橋は

秘
上美河ノ美ウ我

病くれみ井乃むらり古今よ

ふは橋は

あちまきあきとまらりかむふ

これ夕雲乃の中

しらしひま

秘
はる上之

美
鎮惟一とみよかもの物

むらさきをくさしりて

あはれ上りの御方よきお戦はるい

せらふとあり

おしりいとまきと

源のはる上れくさくさつ方ととゆと

さあよととふあよと

いさりあつまはるらりよ

^秘のり人のそくよはあつまはるら

いさりあつまはるらよとおつまはるら

いさりあつまはるらよ

^美必見し人の心動キヲよと上節上り遠

さるはる遠くはるらよと上節上り遠

あつまはるらよと上節上り遠

いさりあつま

^美源の 秘日

^如源此明石姫君乃はるらよと上節上り遠

あつまはるらよと上節上り遠

私云あつまはるらよと上節上り遠

玉ろくろ乃清方しつろれさよあは
是八の名始者しむろくろいじとれら
乃酒者射よ任ろくろいれへらろくろ
たまろくろろくろ

いとろくろ

秘 源乃詞美

あろくろ

河 周章 美櫻

又もろてれハ

美 夕秀方也

とれこもあろくろんとろれあろくろ源乃
心つろくろ夕秀方しけれまにみろくろ
半これとろくろ

和 天いあろくろ

秘 雲上之源乃和のまろくろ美

和 中もあろくろ

美 源乃詞事し

私 夕秀方也

いまいれ家屋しよ

秘 只今来りて振りて夕雲はいつ

いそよ

さしハ

美 源河上ノ河よみくしおろしてよとれ

こしもあつらんをわいもくうあれけ

河よ統テされんよとハ乃活之美

こころうう海草乃

美 夕雲乃白く

風よりきよいなるを吹あき河海に

秘 河海流を念ん只風乃らうと云花は

と吹あつらうよまをれりすと云てあ

りるりよと吹とくわは若上西氣と云

ほろきよもみらうよとなきと品をみ

てまらういんとく風乃最と吹あきた

れうしと云

美 日夕雲ノ心風ト云地ハ最下吹アケ

し其のあつらうとけしやうらうけ上源氏

トトノ所々成け凡乃サハカシテハコソハクモ
ヨアケヌクイシシシ活事ヨトク凡ノ叢ソ吹
クルニ北入然ハ河海項羽記大風揚沙石
文選風賦厥足石拔才望ノ先海ニ及ハラス
私与氏ノ後河ノ義ヲ不用抄云左は之
景行天皇十二年初將討賊次平柏濑大野
野在石長六尺廣三尺厚一尺五寸天皇初
白膜得減土蟻蚱者將踰茲石如柏葉而奉皇
因蹶之則如柏上於大崖故号テ其石曰踰石之

日本紀中七 松拍濑大野 豊前國ノ

預亂之啓蒙記田零凌郡在石濑得風雨
猶如真蓋以上先賢アハけ支條外勅い事也
凡乃事よあつさる凡及管而乃如共為一為
史記 項羽本記 曰於是大風從西北起折木發
屋揚沙石而切真畫晦 外由略

人々さつりて

源乃家司うし屋うのんさ
り
はささりゆれハこれ清方ハの記

寛平御記云八月丙子後昨日言よ今日雨
 不霽昨日申刻大風自良角吹起方刻
 息此外延喜十三年八月一日大風古事抄云
 古今未有如此之大風云
 南ハ北とらるる之は雲上の流りのとらる
 りとらるるの為らとてみたりとらるる
 此とらるる也
 良ヨリ吹風云は良おきては本末たたりと
 おりの小森流りともまらまらと吹らんと

とらるるの地とめりはとらるる
 さぬらとらるるの風とらるる
 しまとらるるのみさとらるる
 花とらるるのとおとらるる
 中将ハいりこらり

源の詞秘
 三條の多よ
 夕霧乃返答
 夕霧乃詞秘母の清らとらるる

うこまはまうして

秘 三條女之夕霧ノ外祖母

うら子乃屋うよ

秘 物とらうとまうし

まうてゆりあんと

夕霧乃三條女一人といふはま

まよもまうしてまひひ

美 源乃詞秘

老いていふて又わうらうら

うら子乃屋うよと夕霧女一人

うら子乃屋

うら子乃屋

美 三條女ノ源乃清云傳なり 秘 曰

うら子乃屋

うら子乃屋

美 夕霧ノ實人リ云

三條女と六條院うよ

秘

夕旁乃其先より幸り云

九條右丞相遺誠云九代有病患日不可謁

於親若有故障者早以消息可同夜事也

又云大風疾而雷鳴地振火火之變非常之時

早訪親次泰朝云

集は禮事略

礼託文王世子曰文王為世子朝於王季曰三

雞初鳴至於寢門内豎之御者曰今日安

否如何内豎曰文王乃喜及日中又至亦如之

及暮又至如是其有不安節則内豎以告文

王文王色變行不能正履 集曰

夕旁ハ儒者云云云云云云云云云云

——云云

二乃流よりり文よりり云云云云云云

六葉流ハ見集よりり云云云云云云

集内云云云云

文いし云云云云云云云云

集 三葉文云

まらりけ云云

夕音成約らむをよ

おとりのうらうら

何 殿瓦

義 義曰寝殿栴皮は蒼月栴瓦モ吹于瓦

龍碧瓦而摧垣神

秘 瓦うらもあま

か かくてあまうらうらうら

義 秘云文由のうら夕音のうら

うらうらうらうらうら

天風よあやうしとおるをうら

うきうけ

そらうらせうらうらうら

秘 三葉文の事

義 義曰板栴改栴雲よ葉花

うらうらうらうら

つまうらうら

秘 権うらうらうら

まうらうらうら

私
げねハク秀人

ふりてたさく乃おやれ

大文ハ今とてもおおしめらるる事あり

あつしとを移政乃おとす事と申せしこ

してりらゆつり時乃屋よはるれと

内乃おとれはきくひの洋しとていふ事

秘
屋とてある事

内右左ハ世にうらなふよおのこ

そらよおあはしつり

美
夕秀ノ心

意しとおよ人の

美
云井乃属れとく
秘

ありつり清おまけり

美
は若上ノ事
秘

三つういりま

秘
たくひらきは若上乃おありさぬありと

美
上代し未まも難有トヤ

いそひんうのぬと

美 花りの里

たし乃の山をりてく

秘

花教里ともしくまてとて

勝るりゆゆし又ぞとぞゆひ

美

け花友里と数ニニ

深きりし欲地を

人々のりてやうまは

秘

夕芳乃の表実法れ人

てくけりていふう

存じ人のりてく

きくひらきい

并 夕芳乃のれ

夕芳ハ実法乃人

あつま

秘

夕芳ハ実法人

三き事とありハ

みしコ、ニテ

イリと乃は

へり花あまのきくひるまゝ心こぼさば

ふりさるん人よとて

秘

かくりも成人とていれとおかまを

美

はま上、敷ん人モガナトし源氏なつ不と

人治てのりふか初と一回也

あつていこくも風さうさうとあつり

東氣ありらう

美曰寛平侍流云八月丙子從那日暮

今日雨不霽昨日申一刻大風の良用候

託寅二刻息共面氣ト見^新 東氣面白

以上美

むさび人乃やうよ

美

河 白雨

和名元良作

暴雨と一程

風乃あまのまふか

六条院乃あつり廣くさる

くつこおりまふおとふとてきけきれ

美

美曰ひろくそらうらみくらんらと院

トヨコ切つて其涙におりまふすおとよ

人々之けきれと云ふは是は流石口久
粒ハスリナキト云ニハ批ス常リ所也一ツ大
事トメ家司ノ下アツテリツハ自余殿
舎ハ人々之けきれノ也

ひんがし

美 花女里

夕雲とハ花女里(源乃と云ふ)は
あし

まゝかたのく

何會明

乃乃がしよこさぬあめいとしひやなうよ吹り
雨風の神ノ身一海ノきり世世極
今よきしやよ風乃時たぬ車何吹
りつ也
あめりらう一現り道遠しきり
私ニまえ物結云連ちよ一交よこさぬ
と一しり現

まゝいしうらむよあうくははれりし

^秘 雲上ののりま

^美 雲の雲を居ぬり。又は雲とま

たれせ

ひんうりのあうこよ

花散里乃ませ

とらうらうらうら

^美 花散里

はくろいまきりーるまひん

夕雲乃花散里乃ませ

夕雲乃花散里

みるこれお

^美 源ノ清方

おひまますふあはらうらむ

^河 高榎

^美 源乃霞下乃順乃清乃用

^美 美曰あうりの回ナル

^美 源氏おひまますとらうのき榎

おぼとせおぼりしたるしやおぼりして

山乃本と

秘 彦乃心

美 彦乃心 彦乃心

日乃心とよきと

美 彦乃心 彦乃心

りれへふり彦乃心

美 秘云彦乃心 彦乃心

中将のこはけと

美 彦乃心 秘

おとせおぼりしたるしやおぼりして

彦乃心とよきと

おとせおぼりしたるしや

美 彦乃心 彦乃心

いれおぼりしたるしや

美 彦乃心 彦乃心

彦乃心とよきと

秘 彦乃心 彦乃心

如行多親

ゆひるまゝいさゝか

無後

^美 元々十千如行多親元後 夕霧の

^武 夕霧乃退き終ふ

ゆめをいさゝか

^秘 ひまをいさゝか

みまじと清てあう

^美 美曰内一ツニカクは格子はへて巻きたる

夕霧乃退き終ふ

若震殿ハめは

^美 内上は格子

夕霧乃退き終ふ

^秘 夕霧乃退き終ふ

^美 夕霧乃退き終ふ

夕霧乃退き終ふ

^美 源乃親 秘

夕霧乃退き終ふ

美 夕霧御返巻 秘

高いさうしん

いとふんよ

美 巻 中

ひびき

美 源

いづくもあ

秘 源ノ初 美

美 巻 曰列ニ任二日ハ短しノ也

内乃好いさうしんもあ

美 秘 文もは秘あ

こたえ孝心ハ十キ人

人うあわーらあ

秘 是より内大臣乃性

あまこれゆ

美 秘 西テハキ斗ノ孝

うといふ

人あはれおぼゆる心じの

介笑と申すに実儀を合りてはたへ
まろハ公の令りて

秘云公よいつくう深キ而る人云々如何

笑曰公ニカニへタル而るりて由候りて是命

心ニ表裏ノアハレ強キ西キ表裏ト云々

云云何

う家さる

秘う家りては也 再笑

笑一 ウルハキヤ才能ノ人ト云

くあんなる事ハ

秘 誰ノ事人ハそれなりと云々ハ

人それと也

笑 誰ノ事人ハ世ニ稀ナル事ト云 賢者一夫

西アハルハ大方ハ吾人ナシトモト云

いとおろしく

笑 源ノ綱

この君一しては

美 夕霧と御は、まじせりし秘

乃風れとてハ

秘 源乃網

美 源乃中多一平治河

おらりあひゆき

秘 此れ痛おらりあひゆき

美 此れ公おらりあひゆきおらりしつ

美 此れ公おらりあひゆきおらりしつ

ためしひゆり

美 其れまじゆりし秘

物ほきれら

秘 夕霧れとてハ

目んしゆいれ南のらとてハ

美 目んしゆいれ南のらとてハ

御前乃とてハ

美 二見のらとてハ

秘 中宮乃馬方し美

美 中宮乃馬方し美

うらとをうらひのうらと

^業 秘立りていひつるうらと今下ハ知子も

をありハ座しき人連下し

^文 内ノりまて衣裳しとこれの歌

神ささくうらと

私は美さうハ川にうらとめ衣裳れさ後

うらとれれさくうらとめ有さうひみ

なまにれと

さやうらとめれ乃か

^何 上の紙よ日れ屋うらとめうらと

あふ明れしとあり不羨一義之八月

日卯の半よわしめうらとめ衣裳れ

後朝重雲未晴法霧れ情ひとく

走乃舟れしくうらとめ中めうらとめ

屋りたれいさくうらとめ明れれ

^松 秀とありてとあり秀不た坊矣

物なりき日くこれなれさくうらと

や明れれし人あり人

美

上代河下日よりまきくろくをてけ
明れぬ不審のこよに河海は疑也
いしきく音もわらうし果ては明
朦朧たる物ほさる中明とれ如と云
美回南の音くろくくつくとウチ有日玉や
カルへはれはるいふまじくわらわたり
今け中まはるあては日美とれく
一況やあふるのあては音とて音
あよハ一入とくくあをたれしとれ

於
中物法ノ習時節別限方角以下あり
相違スルヲ結ニ廻思ふ事而シ
物ほきりあにり

いしきく
わらうし
果ては明
朦朧たる
物ほさる
中明とれ
如と云
美回南の
音くろく
くつくと
ウチ有日
玉や
カルへは
れはるい
ふまじく
わらわた
り
今け中ま
はるあて
は日美と
れく
一況やあ
ふるのあ
ては音と
て音
あよハ一
入とくく
あをたれ
しとれ

かてり

秋ニ感あり七草ありヨナリ美

とみあし

おきてとて喜りぬき黄へし

かきみ

口大人

美 じゴニしとあり

いとあくれきうう枝とも

秘 同よ吹らるサシタレセ 美

吹らるとひせいさよよとらよかきとも

うの標もかれぬいさうの西きよひと

いとそり降りし先くたくんげさうを終

れけ候之先自筆下ノ抄事今眼は候方

本抄中写す

美 秘は候心ねらる事

何 五うりりうよよにわあろりぬ

侍はハ董物一方よりれりハ麿高

五りれよよにわあろりぬ

ぬまこひひ多うれりひとぬれ

ほりも候て侍候乃ききおとす申

又此御らりり者よゆまてたきれれ者
とててるや一公之河海へ廣村香の
事りしつらまらるるすいふ事

弁

志とよ法中曰業荒りれ志とよ或中業荒

志とよ或中業荒

美々曰志とよノ河へ就業荒りしは中
位上は流るるゆへに秋一節は白分た
てもかき中ノ遊風ノ香に大にやうた毛
吹やふまノ袖に流るるやと其も

おーれとよ一り白ハヌ業荒りしは中
秋ノ花をたよのり白ハハアラテか
しけれト云せりサレハおもくよ
うかりト門ツケ目ん北へ流抄美
我ー御らりは是合路也

ゆまていのみ

何 振舞 志とよ音通入ル

秘 少りまひはとての神ありし
中又れは少りまひもまをひら

井 たるいあひかひちりしあつて
うさきうさきまひひめし

美 觸へひい詞の脚はほくすと云力如し是阿
海況に充て乾

美 日秋ノ花モ多ノ袖ノ花はほくうり書
よ書よ白ひたるをとおほあうりし

秘 井本ノ美花ノ秘井本ノ花はひつ
ハゆりまひ活しえし

中 文花神とさうなりうりうり書れん

立いてうさきしと

夕雲の伴也

人くあさきよ

秘 夕雲は清いにてあつらんらとらし

松織ノ肝つあうり書よいさき自然よ

これく麓中會とつりうり書

うひーうり書

うねりし入ぬ

美 日さうらんり人くはつて人くはつて

ふいあゝ新とトイ（凡人）恥名モヨキ程ナリ
祇可とて

清まのりれがとて

秘入内乃始メ十トハ夕方八童取三奉三

辰後カハ少くハくら流ハサレ三美

所三セ三り三の三こ三の三い三せ三え三路

秘源乃所立清と

宰相乃若内侍と

秘二人や三美

は二人夕秀れきり多る人あり

くくくくくく

秘物さりる三美

あ終ハこゆと

美たよあたりとみあより仲美れ

るく物とひわるし若上にかい

事と

契云夕秀乃母子南井と

流とさくしとあたり流と云日月

秘云書上ツたふひアハニシツをニニ後テ
上篇シキトシ

美曰は順ハ中文也事ニ此大宰相内
トト厚リシハ也亦ニさあひひり人有共
シ云ヘリ吾人ニハサニテノモサケト
トハヘリ教テラヌ人トソトあひあり
さ海若別ト見たりヤ
是ニシテトハニニやウナルサハ美

松云乾鳥尻也 是ハ只上篇ニ
凡ニシテ上美

松は美ノ美如何机弁美美
多分同クハハ美ヲ可用也

美曰は美ノ人ニ見たり

美曰は美ノ人ニ見たり
凡ハ人ハナキ物ニシテヨリ空井原

幸し世上一十ト云ふく... 幸し世上一十ト云ふく...
上ノ上上備よんル幸し云ふく...
アタラサル

自乃世々よハ

世上一の清方

中乃みりり

夕乃世中交りり世上一れおくよらあ

おとくへりり幸りり

あつてくせよ

秘

交りり乃世返りも清り乃世返り乃

一とや 美

美曰世よりり乃神と一ハ世返り乃

いふ人あくきん

秘

只今乃世返り

美

只今乃世返り乃世返り乃

あやしくあふ

秘

源乃世美

女とらハ

^美 文中女房斗ニト

げよとらうらりとも

^美 源乃跡略ト云り終りんと也

くひふみぢり神くら

^美 堂上丁凡一ト推し行也 秘曰

松一々此出本丁ハ一々一々

此社此一々一々

^美 美曰胸ノ鳴ノ判ニ威字ニ云云之然

^艾 胸のくくく式此社此一々

ほろさあよまやり

夕秀乃堂上乃神口とみり心よ

且此社此一々一々一々

り一々也

中侍のあきけり

秘 朝回形万且用客儀 万

秘 堂上之源乃一々 美

予一々一々一々一々

夕雲の白かきとあるに似ていふ
いふことし源氏もかきとす

心乃屋しや

何
人れおやの心はむよあはれ子然
よなうしきひのうらみ

こり清くかしくなりて

秘
弟子能ノ刺し美

ふといふ心もさし

源乃るるし

美よみそそまう

秘
源乃の河

美
源乃河林好中文由のうらたけより并

あふくくありあはれゆりゆり

源乃す

武
是くあり源乃中宮とほはれり

美
美曰くありのり心はかきとす

よひし十モて源乃すれはれ心

田如思たかトイへル勢

中文の由何と申人公より御
心と申すは女一と申物も此つぎ
おんすみぢ

美 美曰くは此の言より三心あり
云十九一と申一と申は三心 けり美めい

因 美し現はてとハ物信より一と申
神のこもり

一 松云け美徳一と云

中将すめ今と申人少も此より一と
夕方の世と此神口と云と云
くまハ外と申一と申此と云
此より一と申一と申一と申
此より一と申一と申一と申
えと云ぬ
心と此人の御心よハ一と申人
け夕方の御神と此の不審よ一と
此より一と申一と申一と申

せらふのみ

うらみあふ

可 彼

おしこらあき

秘 けさよ

いそぐくあひ

けさの綱

きとあ

秘 けさの綱 美 ぼ

みとれう

美 井中交の四方の

いそぐくあひ

美 上ノ視ニ中ノ廊ヨリまの指アリ内廊

おしこらあき

美 秘雲井房はさ上

美 日は照ニテ上ノ向あきおち

おとへル一人うよんすり知

いそぐくあひ

明石方一源の事と云ふ事ありて
る終らるゝと云ふ

り人なりあきくか

字乃の事一返

とくく記さして

物乃あされふ

源乃は福明石とくく一云ふ

又姓ふれざらりて事と云ふ事ありて

事と云ふ事

清き流と云ふ事乃

殿舎後御上右の随才ありて

十九の元云家ノ中ハ三方セシ御制止候

一ちらふいひと云ふ事

衣架と云ふ事と云ふ事

心なりと云ふ事

的右上げありと云ふ事

けと云ふ事と云ふ事

武行云と云ふ事と云ふ事

おろしよ萩の葉のうらみのともしうは
日と月よ志む心らして

美

弄云は寄好ふ得勝うらた野かといは
して大方のともり肉して好ふは
事と下ノ心有

秘之源の着位とてく之りあを云之野
ふとハいとてその有さぬ好勝美曰萩
乃ちふら吹月れもろぬ下ノ源の
はるも屋とて流ハ又事とてまはれや

好ふ乃成志ありはトハ成云も是
ヤ已上美

少乃たいは

秘

玉ろくし美

美

美曰花散里ノ清方ノ西ノ射也

とくくさくさくさくさくさくさくさく

美

秘云同家ノ中たはく美曰玉ろくは
よあふんりあこしあこよ割シらこま
り人志まことあこまこま

を

明石の上れへくしつりのまを酒を飲
よむりあ乃道はふんをせぬと
さてきれるよひなとの酒一り

私あにけ事しつ返り但た為ん在能
はたれ我く

日乃まやよき一むり程

上ノ洞美白れりゆきむらむらた

くりこ、こ雲方モ情花氣をさるじ

は
あ
く
も

げさむらむらと日初く

とれさくむらむら

むらむら乃さぬ

比くの酒を

源乃むらむらむらむら比くの酒

おあしとむら

むらむらに源乃たさすまのま

あしとむらむら

むらむら乃ん

美 ちんとは不堪也

松云不引也 七ん二松云云

うら心うきれい

美 玉うら心 秘 美 曰う心方と野方

モく心

むりり心

美 糖ノ字 一几方ヨリ

いとく心

美 源心

月よはきてあくれの事 幸いありけり

くきん

秘 源乃心 風もあくれ多し

うら心

美 源乃心 風れさるふこ 二 源乃心

おもしろい心

さりとも心

秘 心乃心

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

く九ナ十シテ戯ヲふカ井ノ日

玉ころり心もろり方モ定テぬき上トしあ

そのほろの露あむはけくぬくも

何難

申おいとこまやふ

^秘

夕霧也

^美

夕霧の心は次 玉うらと三こく物語

経程にまやうり物言ひあしてふん余上

かゝるはけり

こりみうとらとてしとあし

^因

昨日は雲上みくそまうりさるるまうり

まじりて物とりとらり屋敷とまじり

^美

物言ひの翌朝たははけくもうらふ物事下

モシトコナレヨシ

あつとさうとあつとさうとあつとさうと物
ちかえあつとさうとさうと

^秘

夕霧乃不書しとあし ^美

美 美曰又子兄才ニ遠トカリ云ツイカハトヤ
リ見極ク

あーんよんをとおるの終

源ト玉ろくの作とク秀極ト母

さどろよいとるをやろろる

玉ろくの母のくいあろろる

はんと満んはんとはんと

あーんよんをとおるの終

美 秘云平生くろく

美 曰クカラヌト云ニヤ

同 しいよんをとおるの終
あーんよんをとおるの終

あかりた

美 夕秀ノ心

あかりた

秘 幼少の時

心しちるまを

美 幼らりしみまをこほへ又をわたるまを
か家おひひまひ

好色乃ん成りまを

むらりけりや

可 美諾乃ん心 諾 日本元 眞も同まを

美 美 國直 師古曰 眞直也 漢書高 元下

美 美曰

私云けいしちるまを心しちるまを

ニモ如峽 何也ス 案とらりよ 夕雲公中

みもとらりみまをいとおほりて 活ぬか

うらおひひまをいとおほりて 我公 兼

諾ナむらりしとされともんらるら七

夕雲ノ心也 兼ラ付テ 則心中 兼

諾ニタルナルへ

あふらうとまらや

夕旁乃心中いしくまゝおつ活とい
つゝ一死事とせしおのちの地うり
女の清き飯きふらうかるといふもさうた
らの死とくしとくそくし

何 日本記ハ同胞日服うとく終く
とくわらひ 紐糸一服乃心は掛け抱渡あ
あうら一服うとく終く兄弟はら
いつかちやしとるありあありあ

夕旁ハ工丈之原にるゆつて我公
うらうとく人ナレニハ他服ナト云ニキ
うハ多あくニハと人ニキト

美曰何海ニ日本記ハ日下同胞ナト云テ
とくうとくともあり 紐糸一服兄弟はら
は説たて我曰母方ヲ立れ取と服トモ
ふま下心アヤニリモヤロト云ハレハ打任テ
他服ノ兄弟婚合リ許人キハ人上吉美ハ
例トスルニ不足梵網戒津世ニハコリ姉
妹ハ親行姪元慈悲心是菩薩波羅夷

衆ト説キ洋令格式定リヨリ以来天子
兄弟ニ遠ル道諸人ノ守ル所ノ文依テ義解
スルハ三世ノ諸佛ノ起トイハル如ク此物語所
説リ受スメ自見セハ邪路ニ入キ指掌
トシクナラシ

昨日ノ一ノ所ありん
必
はま上ノ事ノ義

み家よき事なり
美
玉ころもく

八重山吹乃の山
孔多
玉ころもく

玉ころもく此君れとくことク等乃の事お
とくは活潤ノ十七歳よきおとあま
しあはくもありまよあはくもあ
とく山吹乃の山乃のやそなりハあはれたよ
ありまよあはくもありまよあはくもあ
らせまよあはくもあはくもあはくもあ
吹ハ玉ころもくの君よきなりひりちりちり

いゝおんまめくら

^秘 玉ころり方より源のいづれに

三つはまきしはまめくらとて上より

夕雲れつりまめくら 春日

美曰源のゆ 矢三ツ立カハリ 流花のま

ハ玉ころりヨリまめくらとて 氣多ク

流十ル

^{玉響} ぬくくころり月のもききに美かハリ

まめくらとていづれ

^美 美曰女郎花とてころりまめくら

明ころり月ハ源のすて是か

十ハとてはまめくらとて

くころりまめくら

^因 玉ころりは方よりまめくら

まめくらとて源氏抄

えころり

ふくころりまめくら

いばきつりつり

源とむろくの板の心

夕霧乃心

芥子みくき

とらふん

夕霧れ心むろくの源

きくきとらふん

きくきとらふん

とらふん

下霧

下霧よあひま

あはま

秘

下霧よあひま

あはま

あはま

等

源とむろくの心

あはま

あはま

井

源とむろくの心

あよ竹と見送る

何 藤竹トカケリ

美 ちひくよふりておまぬ心 事 秘愛院

斗 橋ニイヘリ

あよ竹の若竹さとし事なれん心て

おまぬ心しりか 古今

あよ竹のよふるまゝいふし初夜乃其

わき切紙おまぬ心

私い川あよ及子 事 初夜乃其

い竹あよ竹の 事 初夜乃其

おん竹とあよ竹

切り竹とあよ竹

美 夕音ノ心

夕音の心 事 初夜乃其

あよ竹の心 事 初夜乃其

あよ竹の心 事 初夜乃其

あよ竹の心 事 初夜乃其

あよ竹の心 事 初夜乃其

秘 ほうひのハぬりおひさしの類 同日
并 綿とくまてひらきうしすり抱

何 江戸屋の文はよあくららら

何 紅く延表式云おと今振色とも種色

式 ももころり

式 ころりころりころり

中物の

くまの類り

秘 源乃るるのまじ 養

湯前乃つるらんさいれん

秘 秘 養 ゴロントあり

秘 禁中ふいあま 西宮毛澤止

養 四花共燈かよあひらりあし

河 康保三年八月有帝裁宴き以上養

松河海ニ何とくまんとく人トあり

まの海一からふ木をかんり

あよいらりしは野分れ吹らら

河とくまらり皆世同風をふくむ

刀天曆傳記之經擯之合並置下机一脚之
上加花文綾霞云 義

二乃比つて出しり花して

義 け比しノ花ハ鴨クサノ草サ 何ハ花ハ文ハ車ハ衣

花田ハ深ル花ハ云ク

何云鴨ハ草ハ移ル花ハ毛ハ露ハ草ハ云ク上ニ 義

秘月草ハ乃ハ事ハ云ク

中將ハ乃ハ事ハ云ク

秘源ハ綱

義 義ハ白ハ藍ハ色ハ年ハ齡ハ從テ淺ハ深ハ云ク

比シりハ事ハ云ク

義 夕ハ勞ハ心ハ

うハまハちハ交ハわハ

相ハあハ乃ハ様ハふハれハまハつハひハをハ并ハ居ハ推

えハりハ女ハらハしハのハえハれハるハるハ云ク

乞ハ免ハ君ハ乃ハ由ハ云クよハりハりハ始

并 明石ハ姫ハ君ハ乃ハ由ハ云ク一ハ夕ハ勞ハれハ糸ハ也ハ 義

夕ハ勞ハ一ハ人ハ事ハ云ク

女房さくらひいふあそびの世に
とよまうり

とくく〜ぬ紙を約り

秘 夕方の詞箋

御はを録乃もりしとこひの二

美 美口上ノ字ニウ西白

高〜〜

明石姫君れ〜〜の世に〜

く〜〜

いねれい

秘 松磯〜〜 美 今下 上 美

わ乃お〜〜と〜〜

為をら〜〜

秘 五井房とあ〜〜

井 五井房とあ〜〜

さけんとや〜〜

ら〜〜

う〜〜

乃ノ會ノ所ヲ考ル

松嶺阿久立ノ所ニ移ルト云フ所ナク

小原氏ノ所ニ移ルト云フ所ナク

トアリ

少政ノ所ニ移ル所ナク

いふ紙筋置ニ付ル

こノ所ニ移ル所ナク

いふ紙筋置ニ付ル

何

本草ノ所ニ移ル所ナク

此中ノ所ニ移ル所ナク

了書ノ所ニ移ル所ナク

小原氏ノ所ニ移ル所ナク

小原氏ノ所ニ移ル所ナク

小原氏ノ所ニ移ル所ナク

小原氏ノ所ニ移ル所ナク

小原氏ノ所ニ移ル所ナク

小原氏ノ所ニ移ル所ナク

しれまふ人うしはさうり風はぬひ
うさりうりといふれりや

是ハ雲のうすやう云てくも
うらう紙れあまひうし人さうり
うまれ云先物や云地さうりよ
うしうしひさうては白り
てれ山吹うりよさうり紙風
うりうし物うりうて山吹うり

あひう枝うきうり紙風
も紙うす何よてもさうり
うり花よけく風とさうり

物決あり好色

さうりうり人れは紙風
うりうり

交り少将物決りりし紙風
枝はナルリ今世病紙り前
終メテ人うりうり詳せ何

同色ノ本節ニ付ル事定ルニ付物法中
し女卷ニ源氏有流ハヤウシと紫紙ノ有流
付ラシ虫卷ノ子母ノ付文書ノハ白事
根草蒲ノ根ノ付若草ニ源氏女ニ白
紙^{抄トアリ}横ニ付存身ニ白文存身ノ紫
様横ニ付今夕秀ノ心ノ河海ニハ美人
ナレハさくらノ又モ思ワサリナレ迄若
多^{下ト云}氣鳥ニハ何事モナレ道ニ花ノ
付^ト下^ト也^トハ流^トル^トヤ^ト以上^ト美^ト入

スルルノ心

夕秀乃早下乃初^并あり 秘日
夕秀乃返^美登 秘云早下ノの返^云
美曰る河海況て流^右見^左流ハ
布^右流^左乃又ノ^右流^左乃又ノ^右流^左
したくぬき流^トル^ト

いけくの流^右乃又ノ^左流^右乃又ノ^左流^右
いけくの流^右乃又ノ^左流^右乃又ノ^左流^右

又—より我のあり—とおが地へて
こゝろより

弁

いづくれより我は行く處に—と
とたふれより

秘

はよりよきありは我のありと云我我お遣
美弁の目—我鳥流るこれや井居
ゆるり—

美

秘云いづくれより我は行く處に—と
流る我鳥流る何や—は我の流る

吾人の有し物ヲトク云云是ハ色井居ニ
し云云

美曰川弁マルレシ。

松浦遠奇

吾人の神よいづくれ行くはほりあり
う定くさぬらさる麻乃—と

く解り乃人くも

井如房は夕方よ初と書てうい美

心く可のふてみすいもくくは

う

夕方此風流くくうぬあきう

う紙かとうり祈し

又もくい行く

又も書流てん

秘是ハ別乃くくありー井一通を

井鷹一通ハおるううー又い流は

い上美

又しうあく 此美節ハ推えうは

けり乃とけ

夕方ノ家人 秘

おしきいハ又うれういん

又も乃使し

いせ給とて

秘 姫君いさくいせ給し

美 明石姫若乃 上京上ノ方よりきく(隠) 花
美 四風山 上京上ノ方へ入りしにたれ(夕
旁ハはぬるりと約そくも半粒にや

同上美

んつらむ乃うやも

上京上ノ方は橋玉うらぬ若ハ山吹よな也
花れふかろせと夕方乃方おろし
美 上京上ノ方橋玉うらぬ山吹明石姫若
有花ニ夕トへタル事若華下三七見上 花多し美
也未三三

まいの物持うらぬ心よ

夕方乃実活よてをぬるも心は
らさるうら上京上をわしん活て心
く家あうよあらし
そくらういもりやあらし

明石姫若

人の志ましくまうは

美 美 四つさくく の較多人は御
らまの又乃心をよ

美 舟之業乃うとてさや

まゝいゝあふいゝるまゝ

美

美 口つねにハげよアニルをうし
是ハ身れえげよ不足とつらさ
こゝの視之四年ハ十一つりにおそ
未乃ひささむらきさり

髪乃おかくぬきやうらり折なるは

おとーり

美

美 曰

まゝいゝあふいゝるまゝ

夕香乃心

さぬくは横山吹といつれ

心

明石姫き成有よまゝいゝるまゝ

れまよあり

かろ人く

夕香乃心中よねまゝ

さもありぬてまゝ行きて

松 け人くハ朝あさよはにそらうてんてま

はりぬて人とうりそ源乃おりよ

てんてさせぬと

笑 案上も姫若も夕芳ト名うよまり

花(平)事(上)より源氏おりきゆふ

くぬそ流ゆとイハリ春日

ちん心もあまのりく流

さひもぬういましぬはつとん夕

乃やうくさやううらと

とはまのぬりふ

秘三條まゝ 美

夕芳乃三條まゝ(美)

う流きいり人

三條めもゆまのあつとあれと

別乃留うさいうも若上明石姫若

玉うさ乃御方うしれうよあま

中くあまのりてハ

三葉文よていさうらうまに居るは
といふよおゑりて中くいれや
内乃たよと

内乃乃母三葉文よていさうらうまに
おめ君と久く見えてまゐる

^美 雲井乃鳥れま
^松 雲井乃鳥と久くみまうと
のほよ

いまこ乃はれはくままうと

^松 内乃乃美

おつゝおれおはよと

^美 夕雲乃鳥と久くみまうと
乃乃

^美 夕雲乃鳥と久くみまうと
乃乃

おつゝおれおはよと
おめ君と久く見えてまゐる
おつゝおれおはよと

夕雲乃事とていふことかぬをみり
心ゆくてせらふこといふに始りす

秘文乃清り心とて美

や云井鷹とていふこといふ事とて美
の清り心とて

いとふていふ事とていふ事とて

不調をいふ事とて

日有居初 進江若れ事とて美因とて

トアリ

は首とて
アリ
ふていふハ
おノトノ
ホラス悪
キト

いとふていふ事とて

秘 におとろの清り心とていふ事とて

美 日有居乃とていふ事とていふ事とて

カレト文ノウタカに行也

それかみくろとていふ事とて

秘 日有居初とて

美 逸典ニ御目ニカケタキト

松云大文乃由河の内有居女とて

りニ不調とて不審とて乃始ハソレシラケテ

河内サレハキキキ入四府ノ実子ニテめいなる
必ニコソコトシテヨクヒワレトヤ

キニシノ語トヤ

秘 武ノリヨリ書ノル余トシテマセリ

巻付をみへるや

再 巻込ソノ事ヲモク人ノ心ヲツテ世ヲ

自邦ヲツケルヤトモキリを原トク

筆 世武ノ自他ニ托スルヤトモキリト巻

共トモトシ心見タリ



